

お願いと呼びかけ

**「自衛隊の市民を恫喝」は終わっていません！
自衛隊訴訟へのご支援ご協力をお願いします！**

2025年8月6日早朝の、陸上自衛隊宮古島駐屯地の隊長が市民を威圧し恫喝した事件は、解決していません。

住民との約束であった「訓練は基地内で行う」を反故にして実施された伊良部での行軍訓練(災害訓練と称するが新隊員の教育課程の一つだと元中谷大臣が言及)の監視と記録を行つていて、新入隊員にマイクで話しかけた私たちの会員2名に対して、当時の比嘉隼人隊長は面前で大声で威圧的に怒鳴り、「私たちには取る必要のない駐車場使用許可について「許可を取れ！ 取ってからやれ！」と命じ、私たちの行動を中断させました。また比嘉隊長は「われわれは許可を取っている」と言いましたが、それは事実ではありませんでした。

私たちは8月19日、宮古島駐屯地内で面談が実現した際に、「威圧的と捉えられたなら不本意なお詫びする」というような、あたかも威圧的ととらえるほうが間違っているかのような誠意のない言葉ではなく、威圧し恫喝したことへの誠意ある謝罪と事実でない発言の撤回を自衛隊側に要請しました。しかし、回答はないまま比嘉隊長は12月1日付けて本省へ異動になりました。

その間、当時の中谷防衛大臣は、「隊長は、マイクを使った抗議行動を止めるため、やむなくそのような行動に至った」と非は私たちにあるかのような発言を繰り返し、「沖縄では過度な抗議が行われている」と事実を作り替え、被害者を加害者に転換するような、沖縄への構造的な差別を助長するような言動を行いました。

比嘉前隊長が異動し、事件はなかったことのようにされてしまうことを私たちは受け入れることができません。このようなことを見過ごせば、全国で自衛隊員が市民を威圧恫喝する事態が生じかねず、市民の自衛隊監視活動や自衛隊に対し意見を言う自由が圧殺され、民主主義と文民統制が危うくなります。

私たちはこの比嘉前隊長を「強要罪」で刑事告発し、10月8日付けて受理され、26年1月8日に那覇検察庁平良支部へ送検されました。起訴されるか否かはまだわかりません。さらに、私たちは国家賠償請求などの民事訴訟を提起し、法廷で軍事国家への道をまい進するこの国の軍事組織の在りようを問い合わせし、基地と軍事組織による住民への人権侵害を明らかにする作業に取り掛かりたいと考えています。

自衛隊員が市民を恫喝するという全国でも例のないこの国賠訴訟には、たいへんな労力と大きな負担を覚悟しなければなりません。宮古島市内外の多くの皆さんのご支援ご協力なくしては継続できません。

「宮古島自衛隊訴訟を支える会(仮称)」に多くの皆さんのがご参加くださるようにお願い申し上げます。

宮古島自衛隊訴訟を支える会
(自衛隊に自由にものを言える会)(仮称)